

平成31年度関西支部定時総会 支部長挨拶

関西支部 支部長 竹田 太樹

この度、関西支部長を拝命いたしました三菱重工の竹田でございます。
支部長就任に当たり、一言ご挨拶申し上げます。

私こと、関西支部の前身である関西造船協会ならびに日本船舶海洋工学会関西支部において、編集委員、会務委員、運営委員などを通じて長年、協会や支部の活動・運営に関わってきました。その間、沢山の貴重な経験を積むことができ、また、多くの産・官・学の幅広い会員の皆様と知り合うことができたことは、私にとって大きな財産であると感じております。ここ数年は支部監事を仰せつかり、長きに渡る学会活動もそろそろ終わりかな、と思っておりましたところ、今回、藤久保前支部長の後を継いで、関西支部長に選出されたことは大変光栄なことであり、ご恩返し共々、その重責を全うすべく微力ながら努める所存でございますので、皆様方のご協力とご支援をよろしくお願いいたします。



日本船舶海洋工学会 関西支部
支部長 竹田 太樹

元来、学会と申しますのは、アカデミック志向を旨とし、会員はそれをサポート、業界人なら会員になって当たり前、といった気風が漂いがちですが、これに一石を投じたのが、かつての関西造船協会の改革であったように思います。現在の学会誌「KANRIN」のベースになったとも言える、会員が楽しめるような雑誌風の会誌「らん」の発行、学生のポスターセッションや、会員家族を含め広く参加者を募った見学会などの行事の開催、KFR や KSSG といった研究活動など、広範囲の会員満足志向したユニークな活動を展開してまいりました。この気質は関西支部にも引き継がれ、協会時代からの活動に加えて、若手技術者研修会、KFR-Jr.や KSSG-Jr.、海事産業説明会といった学生会員や若手会員を対象とした活動にも広がっています。さらには、K シニアの方々によるパワフルな各種公益活動や、造船資料保存委員会も着実に成果をあげつつあります。私といたしましても、この良き伝統と気質を引き継ぎ、広く会員に満足頂ける学会を志向して支部運営に当たっていきたく思います。一方で、支部活動における実務は、業務多忙な中で参加頂いている会務委員諸氏に負うところ大きく、藤久保前支部長時代に各種委員会の枠を取り払った新たな会務委員会への変革を遂げました。この場をお借りして、これまでの活動に敬意を表すると共に引き続きのご協力をお願い申し上げます。

「令和」という新たな時代が幕を開けました。時代の流れを占うというのは困難を伴いますが、今の我々を取り巻くグローバルなトレンド、すなわち、AI を初めとする IT 技術の急速な進化、発電や移動体といった社会インフラにおけるエネルギー革命、地球温暖化対策などの環境保護に対する地球規模での要求の高まり、といったことは船舶海洋に関わる学術や産業に少なからず影響を与えることに疑いの余地はありません。その中であって、物流において圧倒的なポジションを占める交通輸送システムとしての「船舶」のあるべき姿、進むべき道や如何に、あるいは、開発のみならず保護すべき対象としての「海洋」と如何に共存するか、といったようなことが令和の時代におけるテーマとして押し掛かってくるように思われます。それらへの取り組みは学際的であり、また、ルール作りを始め産・官・学の連携が求められますが、産学官連携など船舶海洋分野においては古くから確立されてきたところでもあり、そのプラットフォームとして、あるいは、学术交流の場としての学会の役割を再認識すべき時であるとも考えられ、このあたりも議論していきたいと思っております。



最後になりましたが、歴代支部長の方々が課題として取り組まれてきたこと、すなわち、① 会員数の停滞、さらには減少傾向、② 講演会における企業サイドからの投稿・発表や参加者の減少傾向、③ 懇親会など交流の場における若手会員、学生会員の参加拡大、といったことについても引き続き取り組んで参りますので、皆様方のお力添えをよろしくお願い申し上げます。

私は、冒頭の通り関西造船協会当時から会の活動・運営に関わって参りましたが、これからは、支部長として、本部の副会長として、皆様の活動を支援し、本部との橋渡しをする役目を担わねばなりません。まだまだ経験不足、力不足ではございますが、関西支部の良き伝統と気質を守り、学会ならびに支部の運営と発展に尽力する所存でございますので、会員の皆様、各委員の皆様、学会を支える教育・研究機関、産業界の皆様のご支援とご協力をお願いし、私のご挨拶とさせていただきます。

令和元年5月17日 関西支部定時総会
於：三菱重工業(株)神戸造船所